

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価  
 < C 票 > 第三者評価結果 【国際学部】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	左記を選択した理由： ・ 国際学部で設定した「問題解決能力を備えた学生として基準」を充たす学生数という、量的な目標になっており、非常に具体的です。（評価者 A） ・ 1. 6 年後の目標と 2. その背景、課題及び現状分析が、具体的に記述されている点。（評価者 B） ・ 目的達成の為に優れたプログラムが用意されています。（評価者 C）
「具体的でない」 0 名	左記を選択した理由：
その他気づいた点：	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	< 評価者からのコメント > ・ まったく問題ないと思います。（評価者 A） ・ 妥当で適切です。（評価者 B） ・ 意欲的な取組内容となっています。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	< 評価者からのコメント > ・ 妥当だと思われます。（評価者 A） ・ 詳細で評価し易い指標です。（評価者 B） ・ 数値指標は極めて妥当。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	< 評価者からのコメント > ・ 適切だと思われます。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 B） ・ 部分的な記載に止まらず、全体の記載が期待されます。（評価者 C）

## 教育研究目標 2

### 1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 国際学部で設定した「多文化共生能力を備えた学生として基準」を満たした学生数という、量的な目標になっており、非常に具体的です。（評価者A） ・ 現状を踏まえた上での目標設定は適切です。（評価者B） ・ 同じ目標内容のため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<b>目標の内容</b> （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当、かつ適切です。（評価者A） ・ 評価基準に照合して適切でした。（評価者B） ・ 意欲的な取組内容となっています。（評価者C）
<b>評価指標</b> （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当だと思われます。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 数字として客観性はあるものの、多文化共生能力であれば、漏らさずこれでカバーできているかは、疑問の余地はあります。（評価者C）
<b>目標達成スケジュール</b> （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切だと思われます。（評価者A） ・ 適切です。（評価者B） ・ 記載が一部分にとどまっている理由がわかりにくい。（評価者C）

# 教育研究目標 3

## 2. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 「倫理的価値観」を持った人材の育成として、チャペルアワーを活用し、チャペルアワーに参加する学生を増やすということであり、非常に具体的です。（評価者A） ・ 目標である建学精神やキリスト教理解の深化と背景や課題の現状との関係が明示されている。（評価者B） ・ 同じ目標であるため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<b>目標の内容</b> （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当、かつ適切だと思われます。（評価者A） ・ 評価基準に照らし合わせ妥当です。（評価者B） ・ 評価視点から見て妥当と思われます。（評価者C）
<b>評価指標</b> （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 概ね、妥当と思われますが、延べ参加人数のみならず、集計が煩わしいですが、参加した学生数（異なり数）も指標としてはいかがでしょうか。そのほうがチャペルアワーに参加した学生の広がり分かって、宗教的素養を持った学生を多く輩出するという意味でより適切だと思われます。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）
<b>目標達成スケジュール</b> （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切です。（評価者B） ・ 全年度の記載がなされるか、部分的記載の理由が明らかになることが期待されま す。（評価者C）

# 教育研究目標 4

## 1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際学部で設定した外国語基準（TOEIC740点以上）を満たした学生数という、量的な目標になっており、非常に具体的です。（評価者A）</li> <li>・ 目標がSGU計画との連動していること。（評価者B）</li> <li>・ 学部設定の基準を満たすことに置き換わっているため。（評価者C）</li> </ul>
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>（設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概ね、これで問題ないと思われませんが、次のことが気になります。1点は、英語のみの基準になっていることで、例えば中国や他の言語の外部能力検定の利用ということは考えられないのでしょうか。もう一つは最終的な目標（50%）があまり意欲的とは思えませんが、これは素人判断かもしれません。（評価者A）</li> <li>・ 評価基準に照らし合わせ妥当です。（評価者B）</li> <li>・ 意欲的な取組になっています。（評価者C）</li> </ul>
<p>評価指標</p> <p>（目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妥当です。（評価者B）</li> <li>・ 妥当（評価者C）</li> </ul>
<p>目標達成スケジュール</p> <p>（目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切だと思われまます。（評価者A）</li> <li>・ 適切です。（評価者B）</li> <li>・ 適切（全年度記入が望ましい）（評価者C）</li> </ul>